

大学との連携による地域づくり
「域学連携事業」に13年間取り組む兵庫県洲本市としての
大学との連携の“意義”と“課題感”
プラットフォームに**期待すること**など

洲本市 企画情報部 企画課 政策調整係
高橋 壱（新エネ・域学連携 担当係長）
Hajime_Takahashi@city.sumoto.lg.jp

バンカランカ
洲本のおもろい数珠つなぎ
<https://bankalanka.com/>



大学との連携の“意義”と“課題感”

浸透期

大学が無いために進学等により若年層人口が流失し、人材が不足するなか、地域づくりに関わる学生を獲得できる

大学や学生と関わることが、地域の住民や企業にとって何かを起こす契機になる

シビックプライドが高まる

おもしろい（うれしい、楽しい、面白い）

発展期

地域づくり活動が継続・深化
し、プロジェクトになる

学生が地域づくりの「担い手」に（役割が生まれる、頼れる）

プロジェクト化（一過性からの脱却）により、地域のやりがいが増し、手間と思うことが少なくなる

大学側では卒業による関係性の希薄化や断絶、受入側ではキーパーソン後継者不在、などが起こると、活動の継続、連続性に支障が出る

自立的展開期

プロジェクトの成果が目に見える形で現れる

うれしい誤算などを起点に新しい活動が生まれる

様々なカタチで
学生が地域に定着する

盛り上がりや成果が良い刺激となり、他地域を活動的にさせる

洲本市においても学生の定着事例は多くなく、12年間で関わった学生1,400人のうち約1%程度

大学との連携の“行政主導と民間主導の違い”と“課題感”

	行政主導による推進	民間主導による推進 (中間支援団体等)
マネタイズ 財源確保	<ul style="list-style-type: none"> ・儲けはそこまで気にしなくてよい？ ・学生の金銭的負担軽減に注力 ・プロジェクト実現に向けた各種補助金等を用意 ・予算計上には苦労 	<ul style="list-style-type: none"> ・儲けが無ければ続かない ・対価を得ることが現状では難しい
マンパワー確保	<ul style="list-style-type: none"> ・大学を受け入れ可能な人材や地域をある程度把握している ・地域おこし協力隊や地域活性化起業人などの制度活用による人材確保が可能 ・担当職員の異動リスク 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ人材を育てることができる ・人を増やせば金がかかる
学生への学びの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に受け入れるが学問的なことは大学に任せたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・対価に見合うようしっかり作りこむ ・自らが学生を受け入れることも
センス	<ul style="list-style-type: none"> ・良くはない？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い（学生の扱い、資料の作り込み、成果の示し方など）

⇒ より良い活動にするためには民間活力の活用は欠かせないが、財源に乏しい自治体では行政と民間それが強みを持ち寄り（弱みを補い合い）推進することが肝要

プラットフォームに参画するメリット、期待すること

メリット	<ul style="list-style-type: none">・洲本市域学連携事業（大学との連携による地域づくり）が一層発展する
期待すること	<ul style="list-style-type: none">・企業参画によるマネタイズ向上と、地域内での人材の育成と定着（リクルートの観点からも、必要なお金用意するのは大学や地域よりも企業？）・中間支援団体が適正な対価を得て取り組むことができる・複数の大学や企業によるプロジェクト組成により活動に連続性が生まれ、大きな成果につながる・中学生の頃から高等教育機関への進学や地元就職を意識できる仕組みの構築（高校生は受験等で多忙な印象、高大連携より速いタイミングで）・地域、企業、プロジェクトが一層魅力的になる（人材を引き付ける）・国内留学生、海外留学生の受け皿になる・大学都市神戸産官学プラットフォームや大学コンソーシアムひょうご神戸といった既存の地元プラットフォームと連携した事業展開 <p>⇒⇒⇒ 前述の大学との連携に関する“課題感”が全て解消された状態に！</p>
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・特に無し！・学生をはじめ地域外人材との共創の素地、学生に対する無料滞在施設の確保や交通費助成、プロジェクトを加速化させるための補助金制度、地域おこし協力隊や民間活力を活用した支援体制など、大学との連携に必要なモノが概ね整っているためデメリットは無いと考えるが、逆に必要なモノが無い地域ではこれらを準備する点がデメリットやリスクになる